

キャラクター名
園崎 零(そのぞき れい)

プレイヤー名

シンドローム	ブラックドッグ		ワークス	傭兵	カヴァー	主夫
	パロール					
オプション			年齢	36	性別	男
覚醒	死	衝動	自傷	初期侵食率	47	%
出自	天涯孤独	経験	大恋愛	邂逅	腐れ縁	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	70
肉体	2	1	0			3	行動値	6
感覚	2	0	0			2	(非装備時)	7
精神	3	0	0			3	戦闘移動	12
社会	1	0	0			1	全力移動	24

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	1		射撃	1		RC			交渉		
回避			知覚	1		意志		1	調達	1	
運転：四輪	2		芸術：料理	3		知識：			情報：軍事	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
クリスタルシールド		-1	12	0		[ウェポンマウントで入手]装備中他の武器は装備できない。

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
鎖帷子		8	-1	-1	
アーマースキン※	0	4	-	-	HPダメージ適用される直前に使用。HPダメージを1D10点軽減する。1回/1回。《100%バフ》で取得
合計装甲：		12	合計回避：	-1	

所持品	
データブレイン	
ダーマルプレート	
思い出の一品	
コネ：手配師	
携帯電話	
応急手当キット(調達した)	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
Dロイス：屍人	P	N		
愛する妻：園崎 カレン	P 信頼	N 恐怖		
腐れ縁：春日恭二	P 尊敬	N 嫌気		
シリア：元の世界	P 執着	N 悔悟		
ランスロット	P 尊敬	N 劣等感		
国民	P 庇護	N 嫌悪		
	P	N		

最大財産P: 4 残り財産P: 0

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
ペインエディター	3	-	常時	至近	自身	自動		
効果：	HP最大値+[SL*5] 侵蝕基本値+3							
グラビティテリトリー	3	-	常時	至近	自身	自動		
効果：	HP最大値+[SL*7] 侵蝕基本値+4							
ウェポンマウント	2	-	常時	至近	自身	自動		
効果：	常備化ポイント[LV*5+5]の武器1つを入手。《シリア》で装備することができる。侵食率基本値+2。							
ハードワイヤード	5	-	常時	至近	自身	自動		
効果：	ブラックドッグ専用アイテムをLV個入手。侵食率基本値+4							
マグネットフォース	★	2	オート	至近	自身	自動	1/100%	
効果：	DR直前に使用。カバーリングを行う							
磁力結界	3	3	オート	至近	自身	自動		
効果：	ガード時宣言。ガード値+(LV)D							
時の棺	★	10	オート	視界	単体	自動	100%	
効果：	相手が判定を行う前に使用。その判定は失敗となる。1シナリオ1回。							
孤独の魔眼	3	4	オート	視界	効果参照	自動	SL/シナリオ	
効果：	自分を対象に含む「対象：範囲」「対象：範囲(選択)」の攻撃が行われたとき使用。攻撃の対象を「対象：単体」とし、自分一人に変更する。							
魔人の盾	3	4	オート	至近	自身	自動	1/シーン	
効果：	ガード値+[LV*10]							
メタルフュージョン	2	4	マイナー	至近	自身	自動	1/シーン	
効果：	HPを[(SL+2)D+【感覚】]点回復する							
電磁障壁	★	2	オート	至近	自身	自動	1/シーン	
効果：	ガード値+4D							
ディメンジョンゲート	★	3	メジャー	視界	効果参照	自動		
効果：	どこにでも繋がるゲートを作り出す事が可能。							
タッピング&オンエア	★	1	メジャー	視界	効果参照	自動		
効果：	情報を送受信できる。							

子供の頃の事は、ほとんど覚えていない。1日1日を生きぬくために必死だったから。名前も無くただ、レイと名乗っていた。生き抜くためなら何だってやってきた。子供の身でやれる事は限られている…それでも生き抜く為に抵抗した。大人になっても、生き方は変わらない。その日を生き抜く為に、自分にとって一番やれる方法として、傭兵家業を始める。傭兵として雇われたら、各地の戦場へと赴き、雇われた側に有利になるように働く。そんな生活が数年と続き、ある日その女性と出会った。きっかけは戦場の前庭。雇われた傭兵達がそれぞれ作戦会議する中、その女性は違った。黒い髪をたなびかせ、刀を帯りして沈黙。近寄りたがった雰囲気を出している。男ばかりの傭兵集団で、女性は目立つ。ただその雰囲気と、既に1度玉砕した奴がいた為彼女から離れている。ただ、その表情、その目には意思が見当たらない。そんな彼女を見て、初めて感じる感情があった。ただ、彼女の力になりたい。生き抜く為に傭兵になって、初めて思った感情。自分のためにじゃなく、誰かのために戦いたくなった。そう思ってアタックしようと思っても、中々気合を入れられない。結局、告白も出来ずに戦争が始まる。戦争の前に、ぼつりとつぶやいた。「・・・俺、戦争終わったらプロポーズするんだ」と。偶然にも、彼女と一緒に戦線に戦う事になった。銃弾や剣など、命を奪うソレが辺りを飛び交う中、しっかり辺りを見回す。彼女は、人間離れした動きで刀を振る。その一振りでも敵兵の首や腕が落ちていく。敵も味方も、恐れを為していた。そんな時、離れた所からスコープの反射の光。そして銃声。ソレの射線上には、彼女。マズイ。そう思った時には、もう体が動いていた。彼女を押しつける。その反動で、代わりに自分がその射線上に出てくる形になる。明らかに人に撃つような物ではないサイズの弾丸が、俺の左半身を消し飛ばす。痛みとかもまったく感じない。地面に体が投げ出され、そのまま体が冷たくなっている[ああ、これ死ぬんだ]としか思わなかった。彼女は、俺のほうを見てただただ目を開いて驚いているように見えた。そんな顔で来たんだ。初めてそう思った。そのまま、喉を隠した。後悔はない。好きになった人を守れたのだから。

・・・ふと、目を開く。知らない天井だ。起き上がろうとして、右手に重量を感じる。